



40th anniversary

40周年記念誌

Vol.1

情報エレクトロニクスファンド

追加型投信／国内／株式



INDEX

1. 40年の歩み
2. 私たちの生活はどう変わったのでしょうか
3. 運用者スペシャルインタビュー

40 years' history

40年の歩み

情報エレクトロニクスファンドは、2024年2月に40周年を迎えました。

日本は昭和から平成、更に令和の時代を経て大きく変わるなか、情報エレクトロニクスファンドも40年の間に幾多の荒波を乗り越え、日本で6番目の「長寿ファンド」になりました*。

技術イノベーションやテクノロジーの進化とともに、歩んできた40年間で振り返ります。

※2024年1月時点、国内公募投信／投資対象：株式

数字でパフォーマンスを振り返ってみましょう

+537%
年率リターン +5%
騰落率 (設定来)

+22%
最大月次騰落率 (設定来)

+789%
年率リターン +18%
騰落率 (運用担当者変更後)

・2024年4月30日基準、基準価額(分配金再投資)ベース



基準価額(分配金再投資)とは、当初設定時より課税前分配金を再投資したのとして計算した価額であり、ファンドの収益率を測るためのものです。したがって、課税条件等によって受益者ごとに収益率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮しておりません。情報エレクトロニクスファンドは1984年2月末(設定月末)、TOPIX(配当込み)は指数公表開始月末の1989年1月末を100として指数化しています。TOPIX(配当込み)はファンドのベンチマークではありません。出所:ブルームバーグのデータ、各種資料を基に野村アセットマネジメント作成

Drastic Change of Lifestyle

40年間、 私たちの生活はどう変わったのでしょうか

1984年  2024年

昭和

令和

ブラウン管
テレビが主流
VTRが普及
(ビデオテープレコーダ)



ブラウン管テレビが
消滅、
液晶テレビなど
薄型テレビへ

固定電話が
主流



スマートフォン
が普及
手のひらサイズで
より便利に

現金決済が
主流



モバイル決済が
拡大
手間・時間の短縮に

買い物は
主に実店舗



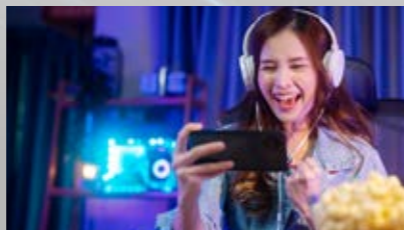
Eコマースが
普及
自宅に居ながらオン
ラインショッピング

職場に行って
働く



リモートワークが
拡大
場所・時間にとらわれ
ない働き方

家庭用
テレビゲーム機
が普及



オンライン
ゲームが拡大
場所にとらわれずに
楽しむ

これまでの40年、私たちの生活スタイルは激変しました。40年後は未だ想像できないようなテクノロジーが広がり、生活が様変わりしているかもしれません。これまでの変化、それらを支えてきたテクノロジーの目まぐるしい進化を見てみましょう。

進化を遂げるために、**エレクトロニクス企業**と**情報通信企業**が大きく貢献しました。情報エレクトロニクスファンドは設定来、そのような企業に着目してきました。

テクノロジーの進化によって
誕生した **イノベーション**

既存テクノロジーの発展
新テクノロジーの登場
生成AIなど

既存サービスの発展
新サービスの登場
生成AIを活用した
チャットサービスなど



IoT
すべてのものがネットワークに接続

自動運転
シェアリングエコノミー
Fintech
クラウドサービス



量子コンピュータ
5G
(第5世代移動通信システム)
エッジコンピューティング

スマートフォン

ネット動画市場
CtoC市場
(フリマアプリなど)
スマホゲーム
電子書籍
音楽配信 SNS



ビッグデータ
半導体ナノ加工
(微細化)
データセンター
整備

PC、携帯電話

Eコマース
モバイル決済
iモード



移動体通信技術
メモリ技術
マイクロプロセッサ技術
ネットワークセキュリティ

日本経済をけん引する分野に投資し、 荒波を乗り越え、高いパフォーマンスを実現

1984年に「レインボーファンド」というファンドシリーズの中の1本として設定された「情報エレクトロニクスファンド」。1991年までに11本*が設定されたものの、バブル経済・ITバブルの崩壊、リーマン・ショックにより運用成績が低迷し、純資産額も減少。2014年までに情報エレクトロニクスファンド以外のファンドが償還された。情報エレクトロニクスファンドも非常に厳しい状況であったが、2011年4月より福田泰之が「再生請負人」として運用担当者となり、2024年に40周年を迎えることとなった。*マネープールファンドを除く

荒波を乗り越えた40周年を迎え、 設定来+500%超のパフォーマンスを実現

—改めて、「情報エレクトロニクスファンド」は どんなファンドですか。

1984年2月に設定された日本株のアクティブファンドで、電気機器、精密機器などエレクトロニクス関連の企業やソフトウェア・通信サービスなど情報通信関連の企業に投資を行ないます。2024年に設定40周年を迎え、4月末までの設定来騰落率は+537%です。*基準価額(分配金再投資)ベース

日本経済をけん引してきた分野に投資し、 3つのターニングポイントを経験

—40年もの間、ファンドが続いた背景には何が あるでしょうか。

ITは長期的な成長の源泉と考えています。投資先のエレクトロニクス分野が長く日本の産業の中心であり続けていることが大きいですね。エレクトロニクス産業は時代の流れと共に変革し、常に新しく生まれ変わってきました。日本経済を引っ張ってきた成長分野だったからこそ、この



ファンドも廃れずに運用を続けられたのだと思います。40年の間には3つの前向きなターニングポイントがありました。1つ目は1990年のバブル崩壊後です。国内のほとんどの産業に逆風が吹くなかでエレクトロニクス分野はインターネットなどの普及で発展しました。2つ目は2000年のITバブルで注目を浴び、ファンドの純資産総額が1,000億円を超えるまでに成長したことです。3つ目は私が運用を担当するようになった2011年の春以降です。ファンドのパフォーマンスが上向き、再生の土台を築くことができました。

「銘柄的中率」×「長打力」、 少数精鋭にこだわって臨機応変に運用

—そのような社会や経済の潮流は、福田さんだけ でなく多くの運用者も認識しているはずですが、 運用成績の差がどこから生じるとお考えでしょうか。

「銘柄的中率」×「長打力」で決まるでしょう。「銘柄的中率」とは、組入銘柄のうち、パフォーマンスが市場平均を上回った銘柄の割合のことであり、「長打力」とは1銘柄当たりの株価上昇率のことです。数多くの市場参加者が存在する中で、「銘柄的中率」ではなかなか差が付きにくく、差が付くのは「長打力」と考えています。野球で例えると、ホームラン級の上昇ポテンシャルがある銘柄と判断した場合はメリハリを付けて、保有ウェイトを高めて、思い切って勝負しないといけないでしょう。当ファンドの組入銘柄数は数千にも上る日本の上場銘柄から30~40と少数精鋭です。ビジネス環境の変化・株価の値動きが激しいテクノロジー関連株への投資にあたっては、景気や市場



福田 泰之 (ふくだ やすゆき)

チーフ・ポートフォリオマネージャー

1995年に野村証券投資信託委託(現:野村アセットマネジメント)に入社し、アナリストとして企業調査・分析を担当。その後、英国拠点においても企業調査・分析に従事したのち、東京本社にてポートフォリオマネージャーとして国内の投資信託・年金の運用担当を歴任。25年以上の運用調査経験を有し、担当する複数の日本株ファンドで高い運用実績を実現。外部評価機関からの表彰を数多く受賞している。「臨機応変」に対応する柔軟さと、チャンスが来た時にはリスクを取って勝負する「メリハリ」をモットーに、変化の激しい市場に真摯に対峙する。

2011年4月より「情報エレクトロニクスファンド」を担当。

の状況を見ながら「攻め」と「守り」を臨機応変にギアチェンジし、機動的に銘柄選別を行ない変化に対応しています。

生成AIなど、新しい技術イノベーションに注目

—注目している分野を教えてください。

情報エレクトロニクス分野は技術的イノベーションやテクノロジーの進化に伴い、成長しつづける永遠のテーマだと考えています。生成AI(人工知能)など新しい技術が生まれ、それらを活用した新しいビジネスモデルを生み出す企業に注目しています。日本のエレクトロニクス業界には戦略的な変革をなし遂げ、次の飛躍的な成長に向けて十分に力を蓄えた企業が存在しており、今後の進展に期待しています。

「勝ちに不思議の勝ちあり、 負けに不思議の負けなし」を大切に

—運用において大切にしていることは何でしょうか。

他人と同じ見方をしないことです。私は運用パフォーマンスで競争をしているので、平均を上回るには、どこかでアンチコンセンサス(平均的な市場予想とは異なる予想)にかけないといけないと考えています。コンセンサスの説得力がありすぎて美しすぎる場合には、少し疑うようにしています。

「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」の姿勢を大切にしています。大きなリターンを掴むため

に日々勝負に挑んでいますが、もし負けてしまっても敗因を突き止め、同じ失敗を繰り返さないようにしています。「強いものが生き残るのではなく、変化に適応できたものが生き残る」という考えも大切にしています。

投資家の皆さまにも 未来へ前向きになってほしい 次の40年間に繋げていきたい

—投資家の皆さまへのメッセージをお願いします。

長く続いた停滞を抜け出し、日本株の未来は明るい方向へと変わりつつあります。日本経済はデフレから脱却し、スポーツ界などでも世界の舞台で活躍する日本人が増えてきました。最近は訪日外国人が急増し、治安のよさや清潔さ、食事のおいしさなど日本の文化・慣習が改めて高く評価されています。

そのなかで、先輩から受け継いだ歴史ある「情報エレクトロニクスファンド」を守り、長く支持される定番ファンドとして根付かせたいと思っています。市場平均に勝つのはもちろんのこと、テクノロジーのファンドと言えば「情報エレクトロニクスファンド」と思っただけのような「業界の定番商品」を目指し、設定41年目を以降も、この志を強く持ちながら、投資収益の確保に努めてまいります。皆さまには、日本という国に自信を持ち、その未来へ前向きに投資してほしいという想いで、当ファンドが長期投資の一助になればと願っております。

40th Anniversary Special Interview

投資信託を運用している人 ってどんな人？



自分の大切なお金を預ける際には、信頼できる人に任せたいものです。
普段はなかなか知ることの出来ない、
ファンドマネージャー（ファンドの運用担当者）の福田さんの素顔に迫ります！

Q1 業務で一番大切にしていることは何ですか？

A **人と同じ見方をしないことです。**
パフォーマンス競争をしているので、平均を上回るためには、どこかでアンチ
コンセンサス(平均的な市場予想とは異なる予想)にける必要があります。



Q2 何かルーティンがありますか？

A ルーティンは嫌いなんですけど、**ゲン担ぎはしますね。**
通勤の時なんか、今は(担当ファンドの運用が)順調なので、
同じ改札を通るなど…(笑)。

Q3 福田さんはどんな性格ですか？

A **頑固・わがままですかね(笑)!**
基本的に嫌なことは嫌だと主張するタイプなので、人からもそう見えるでしょうね。
言い変えるとマイペース。人に合わせる位なら、自分の道を突き進むというか。
その性格はファンドマネージャーに求められる資質かと聞かれることがありますが、
資質というか、私はこの職業以外ではやっていけないでしょうね(笑)。
メンタル面でいうと、**折れてもリカバリーは早いです。**
つらい状況にあっても、いずれ挽回できると自分に期待し続けているところがありますね。

Q4 なぜファンドマネージャーになろうと決めたのですか？

A 大学時代から、日本経済新聞を読んでいました。バブル崩壊当時は
銀行業界を分析する証券アナリストが活躍していて、「偉そうなこと
言えていいな」って思ったんですね(笑)。そこから、自分の職業と
しても、証券業界や資産運用業界は割と身近な感じがしていました。
当時からチャートを見る生活をしていましたね。



Q5 もしファンドマネージャー以外の職業を選ばしたら、
何になりますか？

A 最近だと、スポーツアナリストに興味があります。よくメジャーリーグでデータを
分析していますよね。特に、**「勝負強さ」の解明は面白そうだと思います。**
「勝負強いバッター」って言ったりするじゃないですか。「勝負強さ」について、運用
者にしても、野球選手にしても、ずっと成功し続けるプレイヤーはいませんが、
高い確率で継続的に優れた成績を残す人がいるというのは事実。私自身が優れて
いるかどうかは分かりませんが、これまでのキャリアで勝負どころを間違えて
こなかったという自負はありますね。

Q6 今後の目標を教えてください。

A **資産運用立国に貢献していきたいです。**
業務を行なう上で大切にしている独自の視点と持ち前のメンタル面でのリカバリーの
早さを発揮しながらパフォーマンスを上げることで、野村アセットマネジメントが自信
を持って提供する運用商品を多くの方に認知いただきたいです。

福田さんのとある1日 *Schedule for one day*

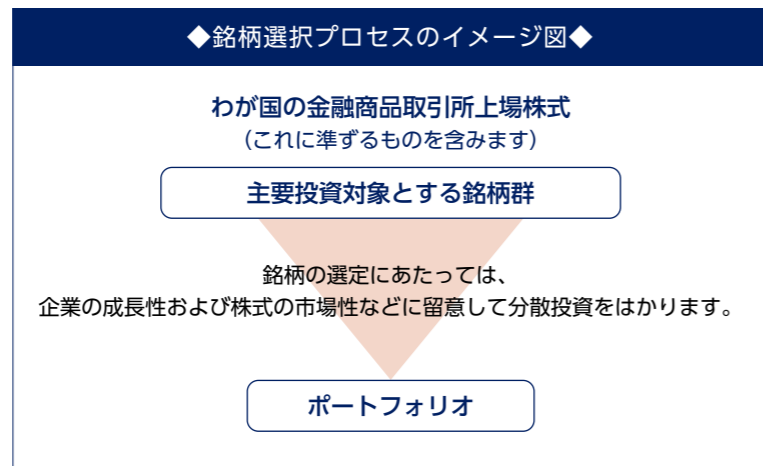
平日	5:00	起床。起床後すぐにニューヨークのマーケットをチェック。	
	5:45	テレビ東京の「モーニングサテライト」を観る。	
	7:10	入社。金融市場の情報をインプットする	
	9:00	東京市場が開いたら、インプットに基づき売買案件を考え発注。	
	午後	個別企業のファンダメンタルズについて調査するなどのインプット。	
休日	Sat.	マーケットをチェック	
	Sun.	ラグビー観戦やオペラ鑑賞	

ファンドの特色

1 わが国の金融商品取引所上場株式(これに準ずるものを含みます。)のうち、電気機器、精密機器などエレクトロニクスに関連する企業群や情報ソフトサービス、通信など情報通信に関連する企業群の株式を主要投資対象とし、信託財産の成長をはかることを目的として、積極的な運用を行ないます。

2 銘柄の選定にあたっては、企業の成長性および株式の市場性などに留意して分散投資をはかります。

・株式組入比率は通常の状態のもとにおいては高位を維持します。



資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

当ファンドの投資リスク

ファンドのリスクは下記に限定されません。

ファンドは、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

<基準価額の変動要因> 基準価額の変動要因は下記に限定されるものではありません。

- ◆ 株価変動リスク： ファンドは株式に投資を行ないますので、株価変動の影響を受けます。またファンドは、特定のテーマに絞った株式に投資を行ないますので、株式市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なる場合があります。また、より幅広いテーマで株式に分散投資した場合と比べて基準価額が大きく変動する場合があります。

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値及び東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数(TOPIX)(配当込み)に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証株価指数(TOPIX)(配当込み)の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

お申込みメモ／当ファンドに係る費用／課税関係 他

お申込みメモ

●信託期間	無期限(1984年2月22日設定)	
●決算日および収益分配	年1回の毎決算時(原則、2月21日(休業日の場合は翌営業日))に、分配の方針に基づき分配します。	
ご購入時	●ご購入価額	ご購入申込日の基準価額
	●ご購入代金	販売会社の定める期日までにお支払いください。
	●ご購入単位	ご購入単位は販売会社によって異なります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
ご換金時	●ご換金価額	ご換金申込日の基準価額
	●ご換金代金	原則、ご換金申込日から起算して4営業日目から販売会社でお支払いします。
	●ご換金制限	1日1件10億円を超えるご換金は行なえません。なお、別途換金制限を設ける場合があります。
課税関係	個人の場合、原則として分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。ただし、NISA(少額投資非課税制度)の適用対象ファンドにおいてNISAを利用した場合には課税されません。ファンドは、NISAの「成長投資枠」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。なお、税法が改正された場合などには、内容が変更になる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。	

※お申込みの際には投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

当ファンドに係る費用

(2024年5月現在)

●ご購入時手数料	ご購入価額に 2.2%(税抜2.0%)以内 で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
●運用管理費用(信託報酬)	ファンドの保有期間中に、期間に応じてかかります。 純資産総額に年1.65%(税抜年1.50%)以内(2024年5月17日現在 年1.562%(税抜年1.42%))の率を乗じて得た額に、運用実績に応じてファンドの純資産総額に、加減する率(年±0.055%(税抜年±0.05%)の率)を乗じて得た額を加減して得た額
●その他の費用・手数料	ファンドの保有期間中に、その都度かかります。 (運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。)
	●組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料 ●監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ●ファンドに関する租税 等
●信託財産留保額(ご換金時)	ありません。

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

当資料について

- 当資料は、ファンドのご紹介を目的として野村アセットマネジメントが作成したものです。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中の記載内容、数値、図表等については、当資料作成時のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。

お申込みの際のご留意事項

- ファンドは、元金が保証されているものではありません。
- ファンドに生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。
- 投資信託は金融機関の預金と異なり、元本は保証されていません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金制度が適用されません。
- ファンドの分配金は、投資信託説明書(交付目論見書)記載の「分配の方針」に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。
- お申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。

情報エレクトロニクスファンド

ファンドの詳細情報は
こちら



お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
株式会社青森銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第1号	○			
株式会社みちのく銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第11号	○			
株式会社福島銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第18号	○			
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○		○	
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
OKB証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第191号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○

以下は、取次販売会社または金融商品仲介による販売会社です。
お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	

※ 上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
※ 販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

設定・運用は

NOMURA
野村アセットマネジメント

商号：野村アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号
加入協会：一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／
一般社団法人第二種金融商品取引業協会